

令和 3 年度

高浜町教育委員会  
自己点検評価報告書

高浜町教育委員会

―― 目 次 ――

I はじめに	· · · · 1
II 「点検・評価について（方法）」	· · · · 2
①対象期間	
②点検・評価の構成	
③点検・評価の方法	
III 自己点検・評価シート	· · · · 3
IV 自己点検・評価シートに対する外部の知見	· · · · 7
V 全体総括	· · · · 11
VI おわりに	· · · · 14

## I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会の権限に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表しなければならないこととされています。

教育委員会が地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これに即した事業を実施し、その後自ら評価を行い、結果を公表することにより着実に計画の実行を図ることができます。

高浜町教育委員会では、令和3年度教育委員会の事務の管理及び執行状況について内容の評価・点検を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して報告書としてまとめました。

自己点検・評価を行うことで、今まで見えていなかった課題や不足していた部分が浮き彫りとなり、また教育行政に携わる一人ひとりが新たな視点を加えた中で事業に取り組むことにより、時代の変化に対応した教育行政の推進に資するものと考えております。

今回、自己点検・評価の取り組み内容を公表することで、教育行政のより一層の推進を図りたいと考えておりますので、住民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## II 点検・評価について（方法）

### ① 対象期間

令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）

### ② 点検・評価の構成

評価項目について

令和3年度において実施した施策を、教育委員会の基本方針に基づき、

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育
3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
4. 青少年の健全育成とスポーツの振興
5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

以上の5区分に分類し、それぞれに定めた重点方策により点検・評価を行いました。

### ③ 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、Ⅲ 自己点検・評価シートにより事業実施状況を把握するとともに、課題や方向性について評価を行いました。

各事業に対する取り組み度・実現度の評価方法は、下記の4段階評価としました。

- |   |
|---|
| A . . . 十分な成果がみられる                      |
| B . . . おおむね成果がみられる                     |
| C . . . 成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である |
| D . . . 成果がみられない                        |

### III 自己点検・評価シート

## 高浜町教育委員会の自己点検・評価シート（令和3年度）

### =基本方針=

- 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
- 人権意識を高め、明るいまちづくりに貢献する豊かなこころを育てる人権教育
- 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
- 青少年の健全育成とスポーツの振興
- 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

A=十分な成果がみられる  
 B=おおむね成果がみられる  
 C=成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である  
 D=成果がみられない

### 1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

NO	重点方策	評価	区分	説明
1 確かな学力の定着		A	実績	①小中学校に、町費単独採用講師を配置（7名）した。 ②小学校に、学習支援員を配置（4名）した。
			成果	①②町費単独採用講師や学習支援員を配置することにより、きめ細かな指導を実施することができた。
2 豊かな心の育成		A	実績	①小中学校に、教育相談員を配置（4名）した。 ②小中学校に、スクールカウンセラーを配置（3名）した。 ③高浜公民館内（はまなす教室）に、教育相談員を配置（1名）した。 ④小中学校的図書館運営を支援する学校図書館支援員を配置（1名）した。 ⑤キャリア教育の一環として、金融教育を実施した。 ⑥要保護児童の支援にあたり、児童相談所、保健福祉課等とのネットワーク強化を図った。
			成果	①②③各小中学校に教育相談員やスクールカウンセラーを配置することにより、児童生徒や保護者からの教育相談体制を整備した。 【相談件数】延べ5,448件 ④学校図書館支援員が、学校図書館の環境整備、図書資料を活用した授業の補助、学校と町図書館間の相互貸出を行った。 【相互貸出冊数】延べ1,044冊 ⑤近隣の金融機関の方を外部講師として招聘（2名）し、お金と金融の働きについての学習を行った。 【高浜中学校】114名（3年）【内浦中学校】未実施 ⑥関係機関と連絡会議やケース会議などにより、要保護児童の早期発見やきめ細かな対応が可能となった。
3 健やかな身体の育成		A	実績	①地域スポーツ指導者（2名）を配置した。 ②各学校が策定する「食育に関する指導計画」に基づき、栄養教諭や給食センター職員による栄養指導（4回）や食育授業（44回）を実施した。 ③地場産食材を活用した給食や食育授業の実施のために、生産者と綿密に調整を図った。
			成果	①地域スポーツ指導者を中学校に配置することにより、専門的な技術指導ができた。 【出務日数】地域スポーツ指導者 延べ51日 ②栄養指導や食育授業により、児童生徒の「食」に対する理解を深める機会を提供することができた。 ③生産者との連携によって、地域産の食材の安定供給に寄与した。
4 教員の資質能力の向上		A	実績	①教員（1名）を、福井大学の教職大学院（マネジメントコース）へ派遣した。 ②小中学校に、情報教育サポーターを派遣した。
			成果	①教職大学院への教員派遣で得たスキルを、他の教職員に伝達する取り組みを行った。 【派遣日数】延べ 35日 ②情報教育サポーターによる機器やソフトのトラブルの対応や、教職員の操作方法の習熟に寄与した。 【派遣日数】延べ 120日

NO	重点方策	評価	区分	説明
5	幼児教育の充実	A	実績	①小学校の教諭が、保育所を見学する研修会を開催（1回）した。 ②各保育所へ外国語指導助手を派遣した。
			成果	①保育所現場と学校現場の情報交換により、相互理解が深まった。 ②幼児期からネイティブな英語に触れる機会を提供できた。
6	外国語活動の充実と国際理解教育	A	実績	①小中学校へ外国語指導助手（3名）を配置した。 ②生徒の保護者に代わって、英語検定料を負担した。
			成果	①外国語指導助手の指導により、児童生徒がネイティブな英語に触れることができた。 ②英語検定料の町費負担により、全ての生徒が受験できる環境を整えることができた。
7	特別支援教育の充実	A	実績	①特別支援学級に在籍する児童生徒（15名）の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を給付した。 ②小学校の特別支援学級に在籍する児童が中学校へ進学する際の移行支援会議を開催（1回）した。 ③学校調査員を対象に発達検査（田中ピニー検査）講習会（1回）を開催した。
			成果	①奨励費を給付することにより、特別支援教育に要する経費の保護者の負担軽減に繋がった。 ②児童生徒の個々に応じた支援方法について、保護者や関係者との合意形成を図った。 ③発達検査講習会を開催することにより、検査結果に正確を期すことができた。
8	教育環境の改善	A	実績	①青郷小学校校舎棟長寿命化改修工事を実施した。 ②高浜中学校テニスコート整備工事の設計業務を実施した。 ③小学校、中学校、高校への入学時の支度金に対する保護者支援のため、入学・新生活スタート応援給付金を支給した。 【給付件数】286件【給付金額】10,130,000円 ④中学校や高校への通学費に対する補助率の嵩上げを実施し支給した。 【嵩上げ率】中学生通学定期代 8割 → 10割 高生生通学定期代 5割 → 8割 ⑤児童生徒の教材費無償化補助金を実施した。（6校） ⑥給食費の無償化を実施した。
			成果	①青郷小学校校舎棟の改修工事を設計に基づいて実施することで学校施設の環境改善を図ることができた。 ②高浜中学校のテニスコート移転、整備に係る計画を策定することができた。 ③④⑤⑥教育に係る保護者の経済的負担軽減に伴う家庭環境の安定化が、児童生徒の精神的な安定に繋がった。 ※自宅からの距離が遠方であるため寮に入っている高校生に対しての助成措置が無く、通学費助成とのバランスを欠いている。

## 2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

NO	重点方策	評価	区分	説明
1	人権教育の推進	A	実績	①インターネット上の人権侵害をテーマとした研修会を開催した。 ②高浜町人権教育研究会の研究活動に対し、補助金を交付した。 ③児童生徒が人権について学ぶ地区学習会を開催（8回）した。
			成果	①目に見えにくい新しいかたちの人権教育について、理解を深める機会を提供できた。 ②③学習、研究活動を通じて、人権への理解を深める機会を提供できた。

### 3.新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

NO	重点方策	評価	区分	説明
1	公民館事業の推進	B	実績	①4公民館において、一般教養、高齢者健康促進、子ども(親子)体験活動などの公民館講座（114講座）を実施した。 ②4公民館合同講座として、各館テーマを変えた段ボールアート展示と工作教室を開いた。
			成果	①公民館講座に延べ3,843名の参加があった。 ②各館テーマを変えたことで、他の館への行き来や教室参加の広がりができた。
2	図書館図書の充実と施設の利便性向上	A	実績	①貸出用図書を、新たに3,395冊購入した。 ②コロナ禍による閉館期間中を利用し、インターネットでの予約について再周知した。 ③定期検診の際に、新生児に絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業を実施した。 ④老朽や破損など廃棄対象となった蔵書等を市民に譲渡する「古本市」を開催した。
			成果	①話題の新刊等を幅広く購入することで多様なニーズに応えることができた。 【貸出冊数】65,185冊 ②コロナ禍においても継続的に読書に親しめる環境を再周知することで利便性の向上につながった。 ③幼少期から本に親しみ、心を育てる情操教育に寄与する取り組みができた。 【配布実績】124冊（新生児1人当たり2冊） ④古本を希望者に譲渡することで、収蔵庫の適正管理を図ることができた。 【譲渡実績】1,553冊
3	国際社会に対応するまちづくりの推進	B	実績	①国際交流に対して意識の高い地域団体が実施する外国語講座や日本語教室の主催に対し、補助金の交付や運営支援を行った。 ②令和2年度からコロナ禍のためオーストラリア海外派遣は中止しているが、これに替わる中学生の英語力向上の手段として、国内における英語に限定した宿泊プログラムであるイングリッシュキャンプの補助制度を立ち上げ、2名の参加があった。
			成果	①国際交流活動を支援することで、市民の国際理解や在住外国人の生活支援に寄与することができた。 ②中学生の英語力向上の手段として、利用のし易い国内でのイングリッシュキャンプへの補助を実施した。
4	放課後児童クラブの充実	A	実績	①町内全学校区4か所で放課後児童クラブを開設し、延べ11,013名の利用実績があった。 ②支援員を対象に、研修会（3回）を実施した。
			成果	①保護者の就労環境を保障する機能として、定着が図れた。 ②研修機会の確保により、保育の質の向上と事故の未然防止が図れた。

### 4.青少年の健全育成とスポーツの振興

NO	重点方策	評価	区分	説明
1	青少年の心身の健全育成	A	実績	①スポーツ少年団（11団体、団員数233名）において、コロナ禍での感染防止対策や活動制限を受けながら、継続した活動を続けることができた。 ②愛護センター補導員等による見廻り、見守り活動（延べ35日）を実施した。
			成果	①コロナ禍で行動制限や規制が多い中、スポーツ少年団活動を継続できたことで、子どもたちの意欲的な活動を支援することができた。 ②定期的な巡回活動により、青少年の夜間徘徊や不良行為につながる行動を未然に防ぐことができた。 (補足)新型コロナ感染症の影響により、青少年高浜町民会議のふれあい広場は中止とした。

NO	重点方策	評価	区分	説明
2	競技スポーツ、生涯スポーツの普及	B	実績	①スポーツ協会委託事業として、町民ゴルフ大会と町民グラウンドゴルフ大会を開催した。 ②幅広い階層が参加しやすい健康ウォーク、スポーツ教室（ボッチャ、スティックリング、ストラックアウト）を開催した。 ③ビーチスポーツ体験会（シーカヤック、スタンドアップパドルボード他）を開催し、海を活用した生涯スポーツの普及活動を行った。 ④東京2020オリンピック・パラリンピックに関する事業を実施した。
			成果	①スポーツ協会委託事業として8種目を計画していたが、コロナウイルス感染拡大により、残り6種目は中止した。 【ゴルフ大会参加者数】 53名 【グラウンドゴルフ大会参加者数】 32名 ②運動習慣の定着や健康増進意識の向上につなげることができた。 【健康ウォーク参加者数】 100名 【スポーツ教室参加者数】 延べ59名 ③総合型クラブとの協働によりビーチスポーツ体験会を2回開催し、高浜の自然環境を活かした生涯スポーツを普及することができた。 【ビーチスポーツ体験会参加者数】 延べ101名 ④聖火リレー、パラリンピック採火式イベント、聖火トーチの展示により、スポーツの魅力に触れる機会を提供することができた。
3	体育施設の整備	A	実績	①中央球場の防球対策のため、上部ネット設置工事を実施した。 ②老朽化した中央球場ソフトボール側バックネット改修するための設計業務を実施した。
			成果	①中央球場の安全性と利便性を向上することができた。 ②次年度の改修工事に向けて、より効果的な工法を検討し実施設計を作成することができた。

## 5.郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

NO	重点方策	評価	区分	説明
1	郷土愛を育む教育	B	実績	①特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）の一環として、県の環境保全団体（水土里ネットふくい）の方と、地域を流れる川（片間川）の生き物観察を実施した。 ②特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）の一環として、雉谷（きじだに）古墳、二子山3号墳、吉坂堡塁を見学した。 ③特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）の一環として、地域の農園で栽培されている「内浦レモン」の収穫・分別作業を見学後、「高浜市場きなーれ」でのレモン販売を体験できた。 ④郷土資料館企画展（テーマ「祈り～仮の美～」「レンズ越しの世界」「記念物100年展」）を開催（3回）した。
			成果	①②③小学生児童が地域を再認識する機会を提供することができた。 ④文化財を常設展示や企画展を開催することで、町民が貴重な文化財に直接触れる機会を提供することができた。 【企画展入館者数】 384名 但し、施設・設備とも老朽化が著しく、この様な機会を今後も継続させていくことが困難な状況になっている。
2	町民の文化意識の高揚	B	実績	①文化会館施設の利用件数・利用者数は、594件、13,439人であった。 ②文化会館事業として、コロナ感染対策を講じながら、3件の町独自事業を実施した。 ③その他、町民の文化芸能意識を高め、情操を深めることを目的とした文芸協会への委託事業（音楽鑑賞事業2回）、文化協会への補助事業（文化祭1回）を実施した。
			成果	①町民の文化意識、情操を深める一助とすることができた。 ②大ホールの新たな使い方提案などを広める事業を実施できたが、人口減少も進み、また施設の老朽化等も進行する中で、今後の施設のあり方を検討していく必要がある。 ③コロナ対策をしながら、広く、町民の文化意識を高める事業が実施出来た。
3	文化財の保存・継承・活用	B	実績	①指定文化財管理者へ補助金（中山寺本堂防災設備保守点検業務補助金ほか6件）を交付した。 ②小和田区伊弉諾神社秋季祭礼道具を町指定有形文化財に指定した。 ③碎導山城跡の環境整備の一環として愛宕神社周辺の立木を伐採した。
			成果	①町内団体による文化財の保護継承活動を支援することができた。 【補助金交付件数・金額】 7件 780,000円 ②後世に伝えるべき貴重な文化財を指定することができた。その一方で、後継者不足、補助要望のニーズの高まりなど現行の補助要綱を見直しする必要性が生じている。 ③立木により妨げられていた山城からの眺望を確保することができた。

#### IV 自己点検・評価シートに対する外部の知見（要約）

##### 1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

- ①小中学校への相談員や支援員の配置や、教育費の保護者負担軽減策などの手厚い支援を、もっと積極的に保護者や地域に広報されても良いと思う。
- ②金融をテーマとした教育の実践は理解ができる。  
この他にも、国際紛争と平和、エネルギーと環境問題といった社会課題についても、専門講師を派遣するなどの支援を期待する。
- ③デジタル社会の進展に伴い交流の場が広がる一方で、それによるストレスが発生していると感じており、これらに適切に対応できるカウンセラーの育成、活用を期待する。
- ④豊かな心は育む教育として、家庭と連携した道徳教育や社会の変化に対応できる色々な体験の場が不足している。
- ⑤特別支援教育へのサポートニーズがますます高まっていく現状があると感じており、教員、講師、相談員の研修の充実や人的配置への配慮を期待する。
- ⑥各保育所や小中学校への外国語指導助手の派遣より、本場の外国語に慣れ親しみ、興味関心を深めている。  
さらに、英語検定受験料の公費負担により、学力向上を図っている。
- ⑦教育環境の無償化関連予算を、教育の質の向上や教員の多忙化解消のための人員確保などに振り向けてほしい。
- ⑧教育費の無償化施策の成果として、「児童生徒の精神的な安定に繋がった」とあるが、お金を配ってもそれが児童生徒の精神的な安定に繋がるか疑問である。

## 2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

- ①人権教育においては、差別性に気付く力、差別への怒り、解決に向けての具体策を考える力を育てることが大切だと感じる。
- ②人権教育においては、相手の立場に立って考えることのできる想像力や、お互いを理解しあうためのコミュニケーションの能力を育てることが重要である。
- ③近年、増加傾向にあるインターネット上での人権侵害をテーマに取り入れ学習を進めてほしい。
- ④人権教育研究会や地区学習会の活動の中で学習した内容が身についているかを確認していく必要がある。

## 3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

- ①公民館活動において、コロナ禍による活動の制約がある中で、“B”評価は評価が厳しいように思う。
- ②公民館の各種講座や行事を「公民館だより」として地域に発信することで、活動の周知や意識啓発にもつながっている。
- ③他町に比べて図書館機能は大変充実しているように感じており、今後も維持・拡大を期待する。
- ④英語に限定した体験企画であるイングリッシュキャンプは、本来であれば良い取り組みのはずだが、参加実績2名という数字は重く受け止めるべきであり、実施方法を検討する必要がある。
- ⑤国際交流協会の活動に敬意を表する。  
しかし一方で、広がりに限界があるとも聞いており、地域のイベントなどとの連携も検討する必要がある。
- ⑥これからの国際社会に対応できるまちづくりができていない。

⑦国際交流活動を支援することが、外国人の生活支援に寄与することにつながった実感がない。

#### 4. 青少年の健全育成とスポーツの振興

①スポーツ少年団活動において、子どもたちが、自主性や社会性を培う上で貴重な体験や交流を広げることができることは良い。

②青少年の健全育成のためには、地域の果たす役割は大きいことから、青少年が地域社会とつながる企画を実践していくことが重要である。

③生涯スポーツは年齢によってその目的や種目が異なってくるので、各年齢層の意見を吸い上げる仕組みを整えてほしい。

他方、幅広い階層が参加しやすいイベント、教室にも更に注力願いたいと思っている。

④生涯スポーツの普及にあたっては、自らが「する」スポーツに加えて、「見る」、「支える」など、スポーツとの多様な関わり方を広げる必要がある。

⑤競技人口の多いスポーツだけでなく、幅広い種目のスポーツに注目してほしい。

⑥体育施設の整備にあたっては、運用面の在り方についても検討していく必要がある。

#### 5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

①各学校における郷土愛を育む教育（ふるさと学習）が積極的に進められており大変有難いことだと思う。

また、これらを継続していくために、郷土資料館、図書館、文化会館が気軽に利用できるような体制を再確認してほしい。

②SDGsに絡めた課外活動が非常に多いと感じるが、通常の授業に支障がないのか気になるため、無理なカリキュラムが、児童生徒や教員の負担増になることの無いよう配慮願いたい。

③町文化協会や各公民館文化祭などへの補助事業や支援を継続願いたい。

- ④文化会館や郷土資料館で、気軽に音楽や演劇、美術などに触れる機会を拡大してほしい。
- ⑤高浜町の伝統文化の魅力を町内外へ発信することで、魅力的なまちづくりを期待したい。
- ⑥町文化財への認識度や関心度の向上を図ってほしい。
- ⑦歴史文化をテーマにした連続講座やミニ講演会を開催してほしい。
- ⑧町の文化や歴史に加えて、忘れられがちな郷土料理も受けついでいきたいと思う。

## V 全体総括

高浜町教育委員会で実施する事業を、高浜町教育方針に基づき5つの項目に分類し、点検・評価を行いました。

令和3年度は、前年度に引き続きコロナウイルス感染症の感染拡大防止措置を講じながら事業を縮小あるいは中止といった判断をしてきました。しかしながら、夏にワクチン接種、他市町への制限もあり、秋以降嶺南においては感染状況が落ち着き、健康ウォークや町民ゴルフ大会などを開催することができました。

一方では、発想を転換したウィズコロナ、アフターコロナという新しい日常生活が拡がりはじめ、これまでの事業の在り方を見直し再検証するよい機会と捉え、人手をできるだけ介しない、非対面の手続きの運用など取り組みを行うことができました。

### 1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

学校を主体的に運営していく教員をサポートする人員を、分野毎に配置することで、学校教育の円滑化を図りました。具体的には、教員複数体制で授業を進めるチームティーチングや習熟度別授業を実施するための講師や学習支援員を配置することで、児童生徒の確かな学力の定着を図る体制を整えました。

また、授業以外の場面では、専門的ノウハウを有したスクールカウンセラーや教育相談員が、児童生徒や保護者からの相談に対応するとともに、部活動の運営面においては、地域スポーツ指導者を配置することにより、競技力の向上と教職員の負担軽減を図りました。

この他、英語力向上のために、外国語指導助手を各保育所に派遣することで、就学前の段階でネイティブな英語に触れる機会を提供するとともに、英語検定料の公費負担により、全ての生徒の受験環境を整えました。

また、これらの学習面の基盤となる健やかな身体の育成のための食育事業の一環としましては、地場産食材を活用した給食の提供のため、生産者からの安定供給を受ける体制を構築するとともに、児童生徒に対しては、栄養教諭や学校給食センター調理員が学校に出向き、食育栄養指導を行いました。

次に特別支援教育については、特別支援教育に要する保護者負担の軽減のために就学奨励費を支給するとともに、児童生徒の個々に応じた支援方法について、保護者や関係者との合意形成を図りました。

次に保護者の経済的な負担を軽減する施策として、給食費の公費負担や、小・中・

高校への進学時に必要となる費用の一部を支援する制度、通学定期の補助率を嵩上げする制度を開始しました。

学校の施設整備面においては、改修時期を迎えている青郷小学校校舎棟長寿命化改修工事を実施しました。また、高浜中学校テニスコート整備工事の設計業務を完了するなど、今後の教育環境の改善に向けた準備を整えました。

## 2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

子どもたちを取り巻くインターネット環境の発達により、ソーシャル・ネットワークサービス（SNS）を使った人権侵害が社会問題化していることから、児童生徒に対し、その実態や対策に関する研修会を開催しました。

一方では、従来からに継続的な取り組みとして、学校における人権教育の質の向上を目指す高浜町人権教育研究会の活動を支援するとともに、児童生徒が体験を通じて人権を学ぶ地区学習会を開催しました。

## 3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

近年は、人々のライフスタイルや価値観の多様化が進み、暮らしにおけるゆとりやうるおいといった心の豊かさが一層求められていることから、生涯にわたって幅広い学習の機会の提供が必要とされています。

このため公民館事業においては、住民自らが学ぶことの楽しさや喜びを実感していただける機会を創出することで、個々の生活の充実を図るとともに、人と人の交流を深めることで地域の活性化につなげる多くの講座を実施することができました。また、感染症対策の一環としてオンラインでの講座を早く取り入れ、今後有効な手法も見出すことができました。引き続き利用者の立場にたったニーズの高い事業を実施し、生涯学習の拠点としての充実に努めていきます。

図書館事業においては、令和3年度は前年度に比べ利用者数が大幅に増加し、また、インターネット予約の推進や新刊情報の発信などを積極的に行い、ステイホームの需要に応える取り組みができました。

また国際化社会に対応する人材の育成において、これまで継続してきた国際交流イベントの実施は難しい状況となりましたが、語学教室の開催や国外活動が困難となった中学生海外派遣事業に代わる国内におけるイングリッシュキャンプの補助制度を創設するなど多文化共生社会を推進する取り組みができました。

この他、放課後児童クラブの運営に関しては、保護者の就労環境を支援する取り組みとして定着が図られてきました。

#### 4. 青少年の健全育成とスポーツの振興

町民だれもがそれぞれのライフステージにおいて、気軽に楽しめる生涯スポーツを普及させることは、世代間の交流促進や健康増進の観点から有効な方策です。

しかしながら令和3年度においても、マスク着用やソーシャルディスタンスの確保などの感染防止対策が難しい競技においては、大会を開催することができませんでした。一方でスポーツ少年団の日常の活動や健康ウォーク、新しい試みとして総合型クラブとの協働によりビーチスポーツ体験会など可能なものに関しては、開催することができました。

次年度においても感染状況を注視しながら、実施可能な手法を検討し、住民の運動習慣の定着を図れるよう取り組んでいきます。

また、社会体育施設の整備や新たな機能の追加導入については、関係者と検討を重ねながら利便性の向上に努めていきます。

#### 5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

郷土愛を育てる取り組みとして、各小学校においては「ふるさと学習」の時間を設け、それぞれの地域の特性などを再認識する取り組みを実践しています。

また郷土資料館においては、常設展示に加え、町民が身近に感じる懐古の写真展や町内の寺院が所有している仏教美術品の展示など、ふるさと意識の醸成を図りました。

今後は、地域の人材を活用しながら、新たな地域文化資源の掘り起こし、町民に関心を持っていただけるテーマを選定していきます。

文化財保護に関しては、後継者不足が顕在化する中貴重な文化財の保存のための補助金の交付や天然記念物の調査などを実施し、管理者に対して継続した支援を充実させていくとともに、文化財を広く町民に紹介する取り組みを進めています。

また、町民の多様な文化活動を披露する文化祭や一流の芸術文化に触れていただく機会を提供する公演など、コロナ禍において実施ができなかった事業においても関係団体と調整しながら引き続き開催手法を検討していきます。

## VI おわりに

今回の評価で得られた外部の知見と共に、この点検・評価結果を活かし、教育の諸課題解決に向け、常に問題意識を持ちながら新規事業・継続事業とも、その内容の強化と充実に努めていきます。

### 高浜町教育委員会

〒919-2292

福井県大飯郡高浜町宮崎第86号23番地2

TEL 0770-72-7724

FAX 0770-72-2889

e-mail gakkou-edu@town.takahama.lg.jp